

# 平成 1 6 年度校内研修計画書

学校名	三沢市立三沢小学校
-----	-----------

## 1 本校の教育目標

1. よく学ぶ子ども (すすんで)
2. 心ゆたかな子ども (やさしく)
3. 健康な子ども (すこやかに)

## 2 本校の教育課題

豊かな心を持ち、心身ともにたくましい実践力のある人間を育てるために、本校の教育課題を次のように設定する。

- (1) 考えを深め、時と場に応じてはっきりと自分の意見を表現できる児童の育成。
- (2) 思いやりの心を持って、助け合い、励まし合って物事を解決していく児童の育成。
- (3) めあてに向かって根気強くやりぬく強い心と体を持って、行動していく児童の育成。

本校の指導の方針から

- ・基礎的、基本的内容の理解と定着を目指し、ねらいの明確な授業に向け、教材研究の深化に努める。
- ・学び方を身につけさせるため、問題解決的な学習や体験的な学習を積極的に取り入れ、主体的に問題を解決することができるような指導に努める。
- ・児童の習熟度に応じた学習活動を工夫し、指導と評価の一体化を図る指導を行い、学習内容の理解と定着に努める。

## 3 校内研究計画

### (1) 平成 1 5 年度の校内研究

研究主題

一人一人に確かな学力をつけていくための指導のあり方  
～算数科の実践を通して～

成果と課題

[成 果]

- ・「評価を生かした指導」を重視して取り組んだ結果、絶えず単位時間内の評価 個に応じた指導という流れを意識することができた。児童一人一人のつまずきを予想し、指導の手だてを考えておくことで、「努力を要する児童」への的確に指導を行うことができ、学力の定着が高まった。
- ・習熟度別指導、TTと実践し、学力向上に一定の成果を上げることができた。15年度実施の学力検査(CRT)では、算数の総合通過率が全学年において14年度より高くなった。
- ・「基礎基本の時間」を14年度より10時間増やし、個別指導にも力を入れたことにより、「表現・処理」の通過率が大きく伸び、ほとんどの学年で全国平均を上回った。
- ・1授業時間の具体の評価規準を設けたことで、どのコースを選択しても評価・評定にズレが無いようにすることができた。また、コース内の指導方法や指導内容を児童の実態に合わせてよりいっそう工夫することができた。参観の保護者からも、「学力に応じて学習していくので、親としても安心している」「同じ問題でもコースによって工夫がなされ、感心した」等の感想があり、おおむね好意的な意見が多かった。

[課 題]

- ・習熟度別学習における「個に応じた指導」に関してはある程度成果が上がってきている。今後は、「発

展的な学習」や「補充的な学習」に適した教材・教具をさらに開発していくとともに、特別な指導や

支援の必要な児童への対応も考えていく必要がある。全校的な支援体制も含めて工夫していきたい。

- ・ CRTの結果から「数学的な考え方」に関しては、全校的に落ちている観点である。また、学年が上がるにつれてBやCの児童の割合が増え、特にCの割合が全国平均よりも高くなっている。このようなことから、16年度は「数学的な考え方」の向上をめざした指導方法、指導内容の研究に特に力を入れていかなければならない。習熟度別学習においてだけでなく、ふだんの授業の中で教材や教具を工夫し、いかに効果的に問題解決学習を取り入れていくかが課題である。
- ・ これまで目に見える学力としてCRTなどを使い評価してきたが、目に見えない学力もできるだけ数値化して評価していきたい。そのためには、他の分掌とも連携して教育活動全般を見直していく必要がある。学力向上の取り組みを通して、最終的には学習指導要領のねらいとする「確かな学力」を身につけることをめざしていきたい。

## (2) 平成16年度の校内研究

### 研究主題

一人一人に確かな学力をつけていくための  
指導のあり方

～算数科の実践を通して～

### 主題設定の理由

#### ア 学校教育目標を具現化する立場から

教育目標である「よく学ぶ子ども」「心ゆたかな子ども」「健康な子ども」を育成するためには、学校の全教育活動を通して具現されるのが当然であるが、特に「学習活動」に重点を置いて取り組むとき本校の教育課題である「基礎的・基本的内容の理解と定着」や「主体的に問題を解決する力の育成」、「児童の習熟度に応じた学習活動の工夫」をめざして、研究に取り組みたい。

それらを取り組んでいくと同時に、学習に対する意欲を高め学習に向かう態度を育てていくために、他の分掌とも連携して「生きる力」を身につけさせ児童がよりよい生活を送れるようにしていくことが、最終的には教育目標のめざす児童像を具現していくことになるのではないかと考える。

#### イ 学力向上フロンティア事業との関連から

本校は、平成14年度より3年間文部科学省事業である「学力向上フロンティアスクール」に指定されている。児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るという観点から、

発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発  
個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善  
児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善

など、「確かな学力」の向上のための実践研究を一体的に行ってきた。これらの観点は、上記の本校の教育課題に鑑みても実践していかなければならない内容であり、3年間の中で計画的に取り組んできた。今年度は、それらのまとめの年である。

文部科学省の方針として、「学習指導要領は最低基準」であり「指導要領はすべての児童・生徒に対して指導すべき内容」であり、各学年等に示された内容の確実な定着を図ることが求められ

ている。

それを受けて本校でも個に応じた指導の一端として発展的補足的な学習のための教材開発に取り組む計画である。

観点	14年度	15年度	16年度
発展的・補足的な学習のための教材開発			
指導方法・指導体制の工夫・改善			
学力の評価を生かした指導の改善			

昨年まで習熟度別学習を中心に研究をしてきたが、それ自体が「個に応じた指導」なのではなく、一人一人の学力保障を日常のレベルで展開している延長線上に一つの効果的な方法として活用される授業方法であると考えられる。まずは、私たち教師一人一人が日常の授業の中で到達させたいねらいを明確にしそれに即した指導を展開させていくことが重要である。

#### ウ 児童の実態から

これまで2年間、算数科をパイロット教科として「確かな学力」をつける研究に取り組んできた。その結果「関心・意欲・態度」「表現・処理」「知識・理解」の観点においては、CRTで全国の通過率を上回る学年が多くなり、少しずつ成果が上がってきているといえる。

しかし、昨年度の反省にも見られたが、全校的に「数学的な考え方」が全国通過率を下回っているという現状はほとんど変わっていない。結果を厳しく受け止め、授業を改善していかなければならない。具体的には、年間計画の中に「問題解決学習」をきちんと位置づけるということや、1時間の中で考えさせる場面を設定することなどが必要であろう。

また、C（努力を要する）の児童の割合も全国より高いので、基礎1コースの児童に対応した「数学的な考え方」をつけていく補足的な指導が急務であると考ええる。

#### 研究目標

児童一人一人に確かな学力の定着を図るためには、個に応じた指導を充実させていくことが有効であることを、授業実践を通して明らかにしていく。

本校では「確かな学力の定着」をどのように判断するか

確かな学力を、「自ら学び自ら考える力」と「基礎的基本的な学習内容」を両輪とした「生きる力」と、とらえた上で、

定着を、一人一人の児童が、「おおむね満足できる（B）」から「十分満足できる（A）」状況になることであり、また指導改善の結果「努力を要する（C）」とされる児童が限りなく少なくなることと、考える。

「個に応じた指導の充実」の具体的方法

#### ⑦一斉授業における授業の質の向上

- ・児童一人一人の個人差をきちんと把握する。

進度差                      学習速度の違い

到達度差                    習熟度の違い

学習スタイル差            認知スタイルや学習習慣など授業場面で表れてくる

興味・関心差              どんな事象に興味・関心を持つかの差

- ・「考える」「発表する」力をつけていくために、「問題把握」「見通し」「自力解決」「比較検討」「まとめ」といった問題解決的な学習スタイルを計画的に実施していく。  
その中で、補足的な学習や発展的な学習を取り入れる。
- ・1 授業時間内（学習の過程内）に具体の評価規準を設け、確実に評価を行っていく。（指導と評価の一体化）  
（ここでいう評価とは、「この子はAだ。」「この子はBだ。」とランク付けすることではなく、子どもを励ましたり努力を支援したりする観点で、子どもの進歩を促したり努力を要する点を伝えたりすること。「ここまでできているよ。」「ここをもう1回考えてごらん。」）

①特別な対応が必要な児童に対する支援

- ・授業時間内での「手だて」や「補充学習」によってもなお理解が図れない児童についての指導の場を設定する。

例：放課後の個別学習の時間、長期休業日等

研究仮説

個に応じた発展的な学習や補足的な学習内容を工夫することにより、基礎的基本的な学習内容が確実に定着していくのではないか。

仮説1 「問題把握」から「比較検討」の場面で、補足的な学習を努力を要すると判断される児童への手立てとして取り入れることにより、自分の考えを持つようになる。

仮説2 「自力解決」から「まとめ」の場面で、発展的な学習をめあてを十分に達成していると判断される児童への対応として取り入れることで、より考える力をつけるようになる。

「基礎的基本的な学習内容」とは・・・学習指導要領の各教科等の目標・内容として定められたもの全体

	発展的な学習	補足的な学習
めあて	学習指導要領に示す内容を身に付けている子どもに対して、より力を伸ばすために行う。	学習指導要領に示す基礎的、基本的な内容の確実な定着を図るために行う。
内容	⑦学習指導要領に示す内容の理解をより広げたり深めたりする学習 ⑧さらに進んだ内容についての学習	⑦必要に応じて繰り返す学習（同一または類似の内容） ⑧別の場面や方法で学び直す学習（同じ内容を、作業的・体験的な算数的活動などで）

指導例	<p>基礎・基本の上に新たなものを作り上げる学習  例) 5年 図形の面積についての新たな公式を作っていく  「三角形」「平行四辺形」の面積→「ひし形」「台形」の面積</p> <p>基礎・基本を活用して問題を解決する学習  例) 5年 偶数・奇数の類別→整数を3つのグループに類別(整数を3でわった余りで分ける)  例) 5年 小数のかけ算  小数第1位までの計算の仕方を考える、その計算ができる→小数第2位がある小数のかけ算の仕方を考える。</p> <p>より負荷をかけた指示・発問を解決する学習  例) 5年</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>デパートで1mのねだんが160円と240円のリボンを2.3mずつ買って、1000円さつを出しました。おつりはいくらですか。</p> </div> <p>「この問題は、一つ一つ計算すると式4つで解けます。工夫すれば式3つでも解けます。もっと工夫すれば式2つでも解けます。さらに式1つにできれば5年生らしくてかっこいいね。それでは、ノートに式4, 3, 2, 1, の四通りをすべて書いてごらんなさい。」</p>	<p>数量や図形についての意味を理解する学習  例) 2年 整数のかけ算  <math>3 \times 4</math>は、3の4つ分にあたる大きさ  <math>3+3+3+3</math>  同じ数を何回も加えるたし算の簡潔な表現  →複数の場合を確かめたり調べたりする</p> <p>数量や図形についての技能の習熟  例) 4年 小数  ・小数を日常生活の場面などで実際に使ってみたり、身の回りで小数が使われている場面を調べたりする。  ・計画的に計算練習の機会を設けたり、問題解決の場面で小数や小数の計算を繰り返す。</p> <p>数学的な考え方の定着  例) 5年 小数のかけ算  <math>2.4 \times 3</math>を<math>2.4+2.4+2.4</math>と考える  別の数値の計算を取り上げて、工夫したり考えたり、説明したりする。  <math>4 \times 1.5</math> いくつかの考え方  一つの考え方について、それを別の数値の計算で同じように用いる</p> <p>スモールステップを取り入れた学習  例) 4年 小数の導入場面  教科書 1ℓを同じように10こに分けた1つ分を0.1ℓと定義する。  ステップ1 0.1ℓにあたることを液量図で色ぬりさせる。  0.2ℓ、0.3ℓとぬらせていき、「0.1リットル」「0.2リットル」と目盛りを読ませていく。  →0.10ℓ(れいてんじゅうりつとる)というこどもが現れる。  ステップ2 1ℓの定義の確認をする。  0.1リットルが10こで1ℓになる。  ステップ3 1ℓと0.1ℓで1.1ℓ、1.2ℓ・・・と数えていく。  教科書 1ℓと0.3ℓで1.3ℓと定義する。</p>
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○均等割り(少人数)普通学級での指導

補充的な学習と発展的な学習が混在する。進捗状況によって判断する。

- 例 ・2種類のワークシートを用意するか、1種類に補充と発展をのせて選択させる。  
 ・導入時は補充、練習問題は補充と発展

○習熟度別学習での指導例

発展コース 教科書の内容をこなしてから、発展的な内容を十分用意する。  
 (プリント学習だけでなく、討議させて練り合う場も必要)

標準コース 教科書の内容の理解にまず重点を置く。  
 その上で、補充的な問題か発展的な問題かを選択させる。

基礎コース 教科書に入る前に復習から始め、それから教科書の内容の理解をめざす。  
 (あまり意味をせまらない。意味を問うと複雑になってかえってわからなくなるので、単純にわかりやすい方法を教えたほうがよい。)  
 「できる」ことをまず保障してから意味の理解「わかる」ことへと向かう。

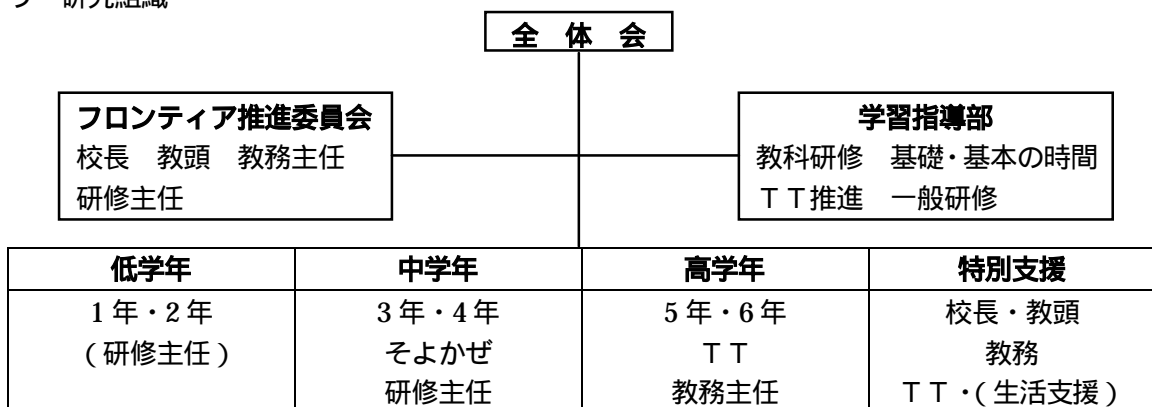
研究の方法

ア 研究対象 「算数」

イ 研究体制

- 全体会・・・・・・・・・・・・・・・・ 全職員で研究計画の共通理解を図り、指導計画の作成や授業を通して研究を推進していく。
- フロンティア推進委員会・・ 研究推進の構想・計画について検討する。
- 学習指導部・・・・・・・・・・・・ 計画全般についての検討、記録、資料保管、情報教育の推進。
- ブロック・・・・・・・・・・・・ 低・中・高学年ブロックに分かれて、教材研究、仮説の検証、指導案作りなど主体的に研究を進める。

ウ 研究組織



エ 研究の方法

- 研修日は原則として、水曜日とする。
- 検証授業は、各学年1回ずつ、年間6回を設定する。(原則として全学級が授業を公開する)
- ・手順は、ブロックでの検討 全体での検討 授業 で進めるが、ブロックでの検討は各ブロックで時間を見つけて行う。また、各ブロックの全員で準備を進める。
  - ・授業日の1週間前までに指導案を完成させ、全職員へ配布する。
  - ・授業記録、研究協議の記録は各ブロックで手分けして作成する。
  - ・研究協議の司会は、各ブロックの学習指導部員が行う。

研究協議で共通理解したことは、成果と問題点をはっきりさせ、次年度への方向性に生かす。  
 検証授業以外でも随時教材の開発や指導方法の工夫を取り入れた授業を実施し、記録（指導案やプリント、写真など）をしていく。  
 研究を累積し、研究記録を作成する。

#### 児童の変容を把握する方法

##### ア 授業の中で

- ・授業前～単元や本時にかかわる事前調査を行い、支援に生かす。
- ・授業中～児童の発表（表情・態度）や、活動の様子から把握する。  
 ○付け法などで、短時間で全員を評価していく。  
 小テスト、ドリルなどで理解度を把握する。
- ・授業後～自己評価、ノートの記録（まとめ、感想）から把握する。  
 ワークテストなどで到達度を把握する。

##### イ その他

- ・情意面を中心に、児童・保護者・教師を対象にした全校アンケート調査を行い、その結果を分析する。
- ・学力テスト（CRT）の結果を前年度と比較し分析する。

#### 月別研究内容

月/日（曜日）	主 な 内 容	方 法	要請指導主事等
4月14日（水）	フロンティア事業に関する共通理解 今年度の研究の方向性 学習習慣・学習ルールの共通理解	全 体	
4月21日（水）	研究主題・研究目標・研究仮説等の決定・共通理解	全 体	
4月30日（金）	研究目標・仮説等の最終検討 年間計画作成における共通理解 年間計画の検討・内容の決定	全 体 ブロック	
5月12日（水）	学力テストの分析	全 体	
6月 2日（水）	5年指導案検討会	全 体	
6月 9日（水）	5年検証授業及び研究協議	全 体	
6月16日（水）	4年指導案検討会	全 体	
6月24日（木）	4年検証授業及び研究協議	全 体	
7月 1日（木）	1学期の反省 2学期に向けての取り組み	全 体	
8月25日（水）	6年指導案検討会	全 体	三沢市教育委員会 工藤正彦指導主事
9月 1日（水）	3年指導案検討会	全 体	三沢市教育委員会 工藤正彦指導主事
9月 8日（水）	ブロック検討	ブロック	
9月29日（水）	ブロック検討	ブロック	
10月 4日（月）	発表打ち合わせ	全 体	
10月13日（水）	発表準備	全 体	

10月20日(水)	フロンティア研究公開発表 (3年・6年検証授業)		三沢市教育委員会 工藤正彦指導主事
12月9日(木)	2学期の取り組み反省 アンケートの実施について	全 体	
1月26日(水)	今年度の研修の反省	全 体	
2月23日(水)	来年度に向けての共通理解	全 体	

#### 4 その他の校内研修内容

月/日(曜日)	内 容	要請指導主事等
5月19日(水)	情報機器研修	校内講師 宮田 和拓教諭
9月22日(水)	描画研修	校内講師 対馬 綾子教諭
10月29日(金)	生徒指導に関する研修 (生徒指導担当)	三沢市教育委員会 工藤 正彦指導主事
11月24日(水)	パソコン研修	アンデス電気株式会社 猪野 浩

研修主任名	小比類巻 雪子	研究指定	有 ・ 無
		(研究指定名)	学力向上フロンティア事業